

第3章 スポーツ推進戦略と施策

1. スポーツ推進の方針

第1章の背景等を踏まえつつ、次に示すスポーツ推進の方針に基づき、スポーツ推進施策を展開します。

(1) ライフステージ²別スポーツの推進

地域におけるスポーツの活性化に向け、幼児期、学齢期、青年期、壮年期、高齢期といったライフステージ別に市民スポーツの推進施策を展開します。

(2) ホームタウンチームの活性化とまちづくりとの連動

ホームタウンチームと市民の交流の活性化や情報発信の強化などを通じて、スポーツによるまちづくりの推進施策を展開します。

(3) 役割分担の明確化

スポーツ振興部署のみならず、町田市役所内外の推進主体及び連携先とともに、町田市全体でスポーツの推進を図ります。

① スポーツ振興課の役割

スポーツ振興課は計画の推進主体の中核として町田市におけるスポーツ情報の拠点となり、関係各課及び庁外組織との連携及び協力のもと、基本理念の実現に向け計画を遂行します。

② 町田市体育協会の役割

町田市体育協会は行政と市民の連携を進めるにあたり、その調整役として市民スポーツを推進します。

③ スポーツ推進委員の役割

スポーツ推進委員はこれまで担ってきた市民スポーツにおける実技指導や事業の運営協力に加え、地域スポーツクラブの設立・運営を支援します。

(4) モデル事業の実施

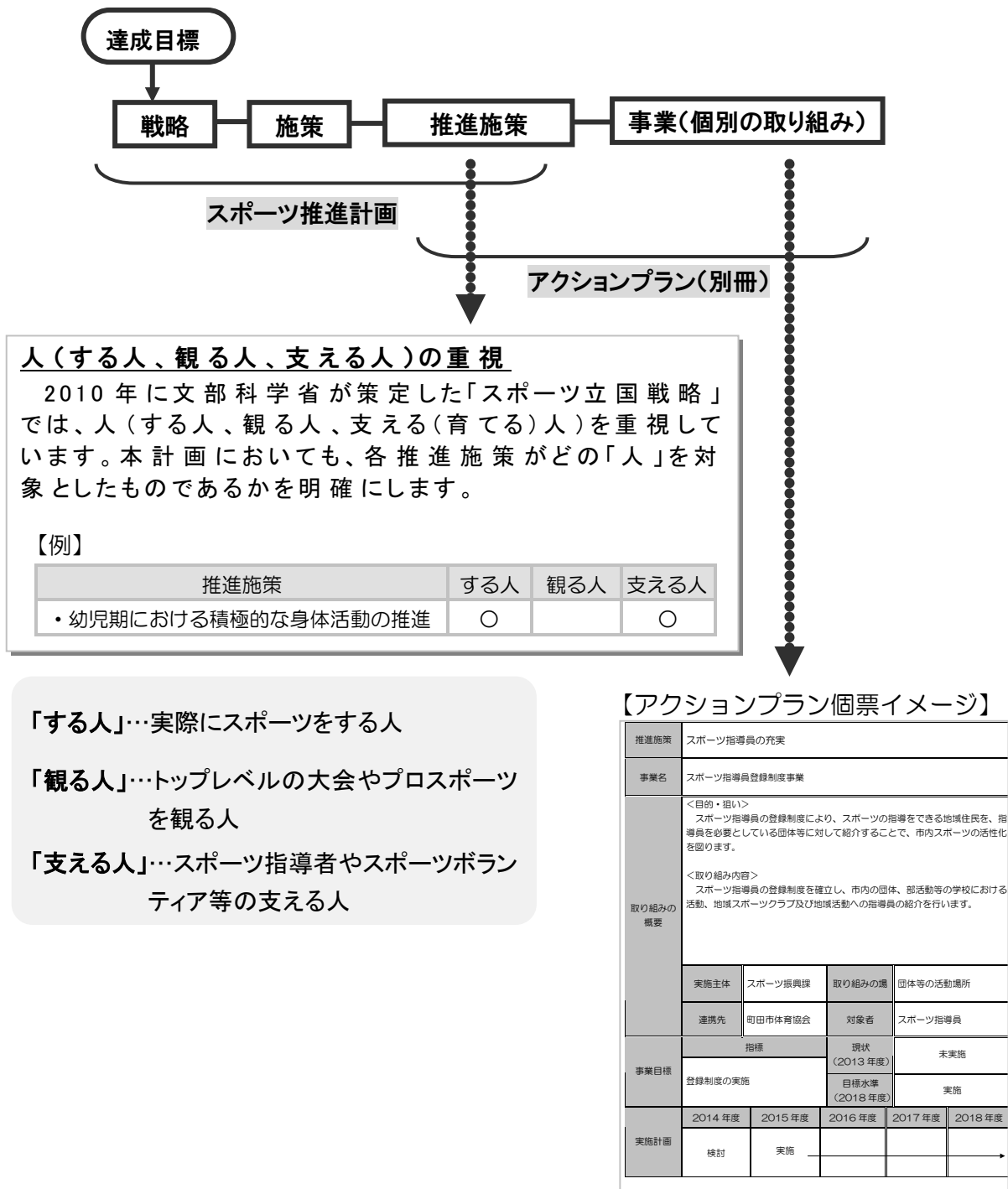
地域スポーツクラブの推進については、町田市に適したあり方を検討・試行するモデル事業を行い、課題等を明らかにしながら普及・推進を図ります。

²ライフステージ：人間の一生におけるそれぞれの段階。この計画では、3歳から6歳の小学校就学前までの時期を幼児期、義務教育の期間を学齢期、15、16歳から39歳までを青年期、40歳から64歳までを壮年期、65歳以上を高齢期とします。

2. スポーツ推進施策の展開

3つの達成目標の実現に向けて、それぞれの目標に対応した3つの戦略「戦略1 市民スポーツの普及・推進」、「戦略2 トップスポーツの支援」、「戦略3 スポーツ環境の整備」に基づき、5つの施策を展開します。

本計画では、施策ごとに施策の対象（「する人」、「観る人」、「支える人」）を明確にした推進施策を示しています。また、具体的な取り組みについて別途、アクションプラン（別冊）に示します。



戦略1 市民スポーツの普及・推進

「戦略1 市民スポーツの普及・推進」では、市民がスポーツや運動を行う機会を持ちスポーツ人口を拡大していくために、ライフステージ別に地域におけるスポーツを推進し、特に、スポーツ実施率が低いとされる働き盛り・子育て世代、高齢者、そして障がいのある人などを対象に、きめ細かくアプローチをしていきます。また、市民スポーツの普及・推進に必要な地域スポーツの場の整備を進めます。具体的な事業としては、地域スポーツクラブの設立支援、地域学校開放推進事業やニュースポーツの推進等に取り組みます。

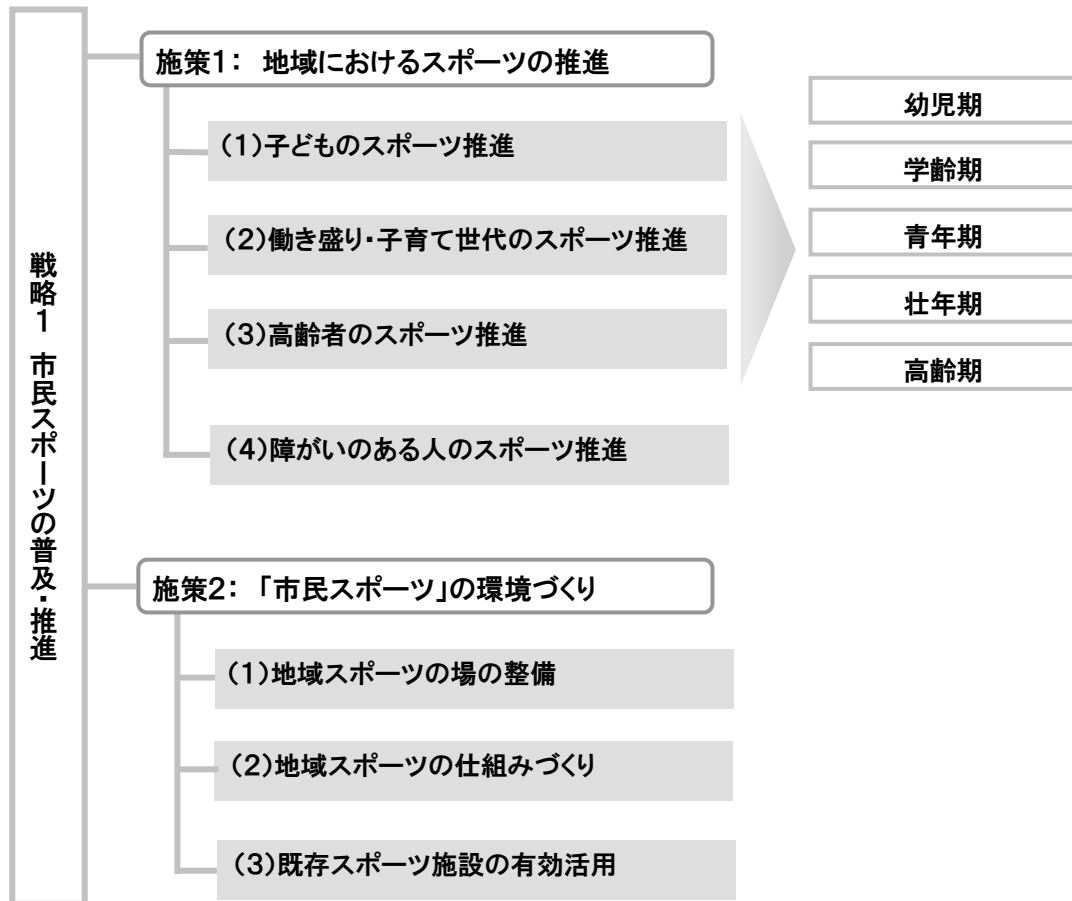


図3-1 戦略1 市民スポーツの普及・推進における施策の展開

施策1 地域におけるスポーツの推進

幼児期、学齢期、青年期、壮年期、高齢期の5つのライフステージ別にスポーツ推進施策を展開し、障がいのある人についても、幼児から高齢者までのそれぞれに適したスポーツを推進します。また、スポーツによる健康づくりにおいては、食育や栄養学といったアプローチや、心の健康にも留意して推進します。

(1) 子どものスポーツ推進

スポーツは、青少年の心身両面の健全な発達に資し、心の豊かさや生きがいを与えてくれるものです。ところが、外遊びやスポーツ活動時間の減少、手軽な遊び場の減少など社

会環境や生活様式の変化により、幼児期や学齢期において主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を、生活全体の中で確保していくことが難しくなっており、大きな課題となっています。国では、2012年に幼児の体を動かす運動遊びを推進するため「幼児期運動指針」を作成しました。

幼児期のスポーツ推進施策

(課題)

町田市においても、「幼児期運動指針」に基づいて、屋外で遊んだり、スポーツに親しむ機会を意識して確保していくことが必要です。具体的には、毎日60分以上楽しく体を動かすことが求められています。子どもの保護者及び保育者に、子どもを取り巻く環境を十分に理解してもらい、積極的に体を動かす機会を作っていくことが必要です。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・幼児期における積極的な身体活動の推進	○		○

学齢期のスポーツ推進施策

(課題)

「平成23年度東京都児童・生徒の日常生活活動に関する調査（平成24年2月）」（東京都教育委員会）によれば、東京都の児童・生徒の1日の平均歩数は学年が進むほど減少しており、30年前と比べると半減しています。また、「平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（平成25年12月）」（文部科学省）によれば、スポーツをする子どもとしない子どもの二極化が進んでいることが明らかになっています。

家庭、地域、学校が協力して、子ども達がスポーツの楽しさや効果を実感し、体力・運動能力を高めるとともに、仲間とともに進んでスポーツに親しむことのできる環境を整えることが必要です。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・子ども居場所づくりと連携した身体活動の推進	○		
・学齢期のスポーツの推進	○		○

(2) 働き盛り・子育て世代のスポーツ推進

勤労者向けのスポーツ教室を総合体育館やサン町田旭体育館で開催しています。働き盛りの人や子育て世代が利用しやすい施設の利用基準やプログラム、ファミリースポーツ³のプログラム開発が求められており、既存施設の利用拡大とそれに伴う、利用基準の見直しを進めます。

青年期～壮年期にかけてのスポーツ推進施策

(課題)

仕事が終わってからスポーツをしたい人への対応が求められています。働き盛りの人や家族単位を対象としたプログラムの充実や夕方以降の時間帯の教室の充実、様々な種目でのプログラム検討が必要です。

プログラムを新たに実施する際には、一般利用の少ない時間帯に設定するなど、バランスを考えることが求められます。また、利用基準の見直しや、夜間照明の整備による利用時間の延長が求められていますが、そのためには近隣の方々の理解が課題となります。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・【重点施策】健康づくりと連携したスポーツの推進	○		○
・既存施設の利用時間の延長	○		○
・ファミリースポーツの推進	○		
・働き盛りの人のためのプログラムの開発	○		

(3) 高齢者のスポーツ推進

中高齢者向けのスポーツ教室を総合体育館やサン町田旭体育館、陸上競技場等で開催しています。総合体育館では、初心者を対象にミニテニス・ネオテニス・ソフトバレーボール等の教室を定期的で開催したり、開放の枠を設けたりして、ニュースポーツの振興に取り組んでいます。また、下小山田町にマレットゴルフ場（暫定設置）を整備し、町田市マレットゴルフ協会を中心として、活発な活動が行われています。

³ファミリースポーツ：家族で楽しむスポーツ。身近なところで手軽に楽しめるスポーツには、なわとび、体操、ジョギング、キャッチボールなどがあり、出かけて楽しめるスポーツでは、テニス、卓球、ボウリング、自然にふれながら楽しめるキャンプやサイクリングなどがあります。

高齢期のスポーツ推進施策

(課題)

町田市の高齢化率は23.25%（2013年12月時点）となり、超高齢社会に入っています。推計では2017年には、市民4人に1人は高齢者となります。競技スポーツを行う高齢者は少ないものの、ウォーキングや体操などの軽スポーツを行う人は多く、健康づくりや生きがいづくりなどを目的としたスポーツへの要望が多くなっています。特に近年は介護予防や予防医療を踏まえたスポーツの推進が求められています。また、高齢者の社会的孤立が問題になっており、スポーツ等を通じた地域のつながりが求められています。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・【重点施策】高齢者を対象としたスポーツの推進と指導員の育成	○		○

(4) 障がいのある人のスポーツ推進

障がい者を対象とした卓球教室や障がい児スポーツ教室、障がい者スポーツ大会を開催しています。

障がいのある人のスポーツ推進施策

(課題)

障がいのある人がスポーツに親しめる環境は、レクリエーションスポーツ、競技スポーツともにまだ十分とは言えません。気軽に楽しく体を動かせる環境を創出するため、プログラムの提供や指導員の育成など、障がい者スポーツを推進するための取り組みが求められています。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・【重点施策】障がい者スポーツの推進	○		○

施策2 「市民スポーツ」の環境づくり

身近な場所でスポーツに親しめるようにするため、学校の校庭・体育館を地域のスポーツ活動の拠点として位置づけ、学校敷地内に「クラブハウス」を整備したり、公園や道路といった既存の公共施設を地域スポーツの場として整備したりして、スポーツ環境の充実を図ります。地域スポーツクラブの普及に向け、「まちだモデル」を検討し、推進します。また、既存スポーツ施設については、長寿命化など計画的な有効活用を図ります。

(1) 地域スポーツの場の整備

総合体育館等の公共スポーツ施設については、年間延べ150万人の方に利用されています。また公立小中学校の校庭や体育館の一般開放についても、年間延べ50万人の方に利用されています。(2012年度)

2009年には法政大学との連携により地域スポーツクラブである「法政クラブ」が設立され、各種スポーツ教室を実施することで、地域住民に対して専門的な指導の提供を行っています。また、東京家政学院大学との連携によりテニスコートの地域開放が行われています。

(課題)

親子で気軽にボール遊びができるような身近でスポーツを楽しめる場が不足しています。働き盛りや子育て世代でも気軽にスポーツができる地域スポーツの場が求められています。

学校開放は年間延べ50万人の方に利用されていますが、利用登録者数は約1万人となっており、より多くの市民に利用していただけるよう見直しが行われています。同様に、スポーツ広場のあり方についても早急に検討が必要です。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・【重点施策】地域スポーツ推進のためのクラブハウス等の整備	○		
・【重点施策】ストリート系スポーツの場の整備	○		
・公園・緑地等の芝生の整備	○		
・新たなスポーツ利用の場や機会の創出	○		○

(2) 地域スポーツの仕組みづくり

2011年4月に「町田市地域スポーツクラブ設立及び運営事業補助金交付要綱」と「町田市地域スポーツクラブ支援事業実施要綱」を制定し、地域スポーツクラブに対する支援体制を整えました。

(課 題)

地域スポーツクラブの設立及び運用に関する支援策についてより積極的に周知することや新たにクラブを設立しようとする団体の掘り起こしの抜本策が求められています。市民が主体となった地域スポーツクラブを今後活性化していくためには、その設立や運用の課題について、行政と地域が一緒になり、モデル事業によりきめ細かく、町田市版の地域スポーツクラブのあり方を検証していくことが必要です。また、スポーツ人口を増やすためには、スポーツ推進委員をはじめとしてスポーツ指導体制の充実が必要です。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・【重点施策】まちだ地域スポーツクラブモデル事業の推進	○		○
・【重点施策】「まちだニュースポーツ」の推進	○		
・大学との協定の締結			○
・スポーツ指導員の充実			○
・ボランティアスタッフが活躍できる仕組みづくり			○

(3) 既存スポーツ施設の有効活用

利用者の意見を取り入れる仕組みとして、スポーツ施設の指定管理者による利用者アンケートを実施しています。例えば、指定管理者を導入した施設では、事業者提案等により売店でのグッズ等の販売、自動販売機の増設など、利用者に気持ちよく利用していただけるよう利用者ニーズに応じて、管理運営の中で実施しています。また、総合体育館や室内プールなどを対象に長寿命化のための診断を実施しました。

(課 題)

大会等での利用と一般利用の棲み分けが明確になっていないため、利用基準を改めるとともに、利用者の理解を得なければなりません。既存施設の改修については、限られた予算の中で長寿命化の診断結果をどのように反映できるか検討し、総合的かつ計画的に取り組むことが求められています。今後については、利用者ニーズを取り入れるためのより具体的な仕組みの検討が必要です。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・既存スポーツ施設の有効活用	○		

戦略2 トップスポーツ支援

「戦略2 トップスポーツ支援」では、トップスポーツを活性化し、競技スポーツを観る人のスポーツ人口の拡大をはじめ、まちの魅力向上や活性化のために、ホームタウンチームの支援と協働を推進します。また、トップスポーツの環境づくりとして、トップスポーツの場の整備やアスリートと市民の一層の交流の促進を図ります。具体的な事業としては、ホームタウンチームと連携した社会貢献活動やイベントへの参加拡充、スポーツを通じたシティセールスの推進、オリンピックキャンプ地招致などに取り組みます。

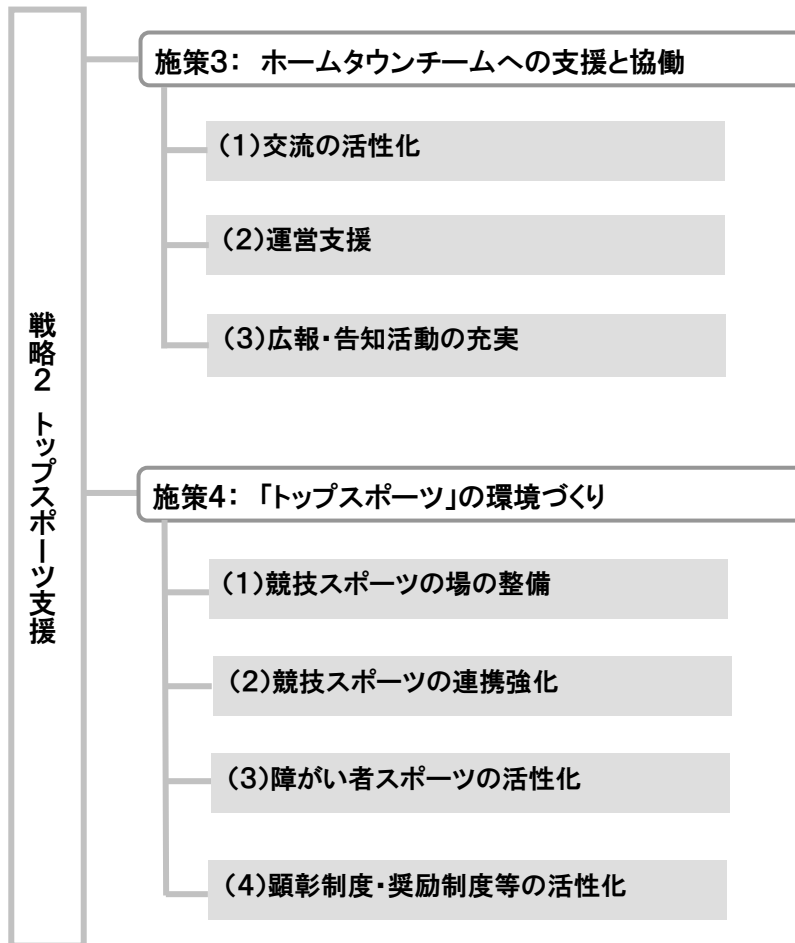


図3-2 戦略2 トップスポーツ支援における施策の展開

施策3 ホームタウンチームへの支援と協働

ホームタウンチームへの支援と協働を積極的に推進するため、ホームタウンチームと市民との交流の活性化、ホームタウンチーム運営の支援、ホームタウンチームの広報・告知活動の充実を進めます。

(1) 交流の活性化

ホームタウンチームが小学校や学童保育クラブを訪問したり、地域のお祭りへ参加したりすることなどによって、市民との交流を図っています。

(課題)

これまでもホームタウンチームによる積極的な取り組みにより、市民との交流は活発に行われてきましたが、今後さらなるスポーツによるまちづくりを推進するためには、ホームタウンチームとの協働を進め、市民との交流を一層活発化していく必要があります。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・ホームタウンチームの社会貢献活動やイベントへの参加拡充		○	
・市内小・中学校との連携促進		○	

(2) 運営支援

ホームタウンチームや国際大会等で活躍するトップアスリートを後方支援する組織として、市民が主体となった「Sports まちだホームタウン協議会」が設立されました。

また、市は、ホームゲームへの集客のため、ホームタウンチームが実施している自治会などの各組織に招待チケットを配布する活動や選手自从来場を呼びかける活動を支援しています。また、陸上競技場や小野路球場などの改修により快適な観戦環境を整えることで、集客の増加を図っています。

(課題)

行政とホームタウンチーム、民間がさらに連携を強化し、スポーツイベントに取り組んで行く必要があります。特に、ホームタウンチームを盛り上げていくためには、サポーターのさらなる拡大が必要です。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・スポーツイベントの集客増に向けた連携強化		○	○
・試合会場・練習会場の優先確保	○		
・サポーターの拡大			○

(3) 広報・告知活動の充実

「Sports まちだホームタウン協議会」が運営する町田市スポーツ活動支援ポータルサイト「スポまち」を構築しました。市や商店街などでは、これまでもホームタウンチームの応援のため、町田駅周辺での横断幕や商店街の街路灯フラッグの実施を行ってきました。

(課題)

スポーツによるまちづくりのひとつとして、町田市の魅力であるホームタウンチームを市内、市外に積極的、継続的にアピールすることでホームタウンチームについて多くの人に知っていただき、さらにはホームタウンチームが町田市民にとっての誇りとなることが望まれます。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・【重点施策】スポーツを通じたシティセールスの推進		○	○



キャノンイーグルス



F C町田ゼルビア



ASVペスカドーラ町田

施策4 「トップスポーツ」の環境づくり

「スポーツ祭東京 2013（第68回国民体育大会・第13回全国障害者スポーツ大会）」終了後のスポーツ施設の活用を推進します。併せて競技団体との情報共有化やボランティアスタッフが活躍できる仕組みを構築し、競技スポーツの連携強化を図ります。また、障がい者スポーツの活性化に向け、場の提供に留まらず、競技スポーツの大会を中心とした体系的な事業を実施します。

（1）競技スポーツの場の整備

「スポーツ祭東京 2013」の開催に向け、スポーツ施設の大規模改修を行い、総合体育館ではバレー・バドミントン、陸上競技場ではサッカー、小野路球場では軟式野球が実施されました。また、総合体育館ではASVペスカドーラ町田の試合など、陸上競技場ではFC町田ゼルビアの試合など、小野路球場では全国高等学校野球選手権西東京大会の試合など大規模な大会等が開催されています。

（課題）

東京オリンピックのキャンプ地招致等を見据え、全国大会や国際的な大会の誘致など、スポーツ祭東京 2013 終了後の総合体育館、陸上競技場及び小野路球場の活用策の検討が必要です。競技スポーツと一般利用の棲み分けの明確化と、基準変更に向けた利用者等の理解もあわせて課題となります。

（推進施策）

推進施策	する人	観る人	支える人
・【重点施策】オリンピックキャンプ地招致		○	○
・スポーツ施設の有効活用策の検討	○	○	

（2）競技スポーツの連携強化

町田市体育協会と傘下の各競技団体が中心となり、種目別の競技会が開催されています。「スポーツ祭東京 2013」で活躍したボランティアの組織化および育成を行ってきました。

（課題）

市民へのスポーツ指導を担う人材の確保に努めると同時に、「スポーツ祭東京 2013」に参加いただいたボランティアが継続して活躍できる仕組みづくりが課題となります。

また、市内におけるスポーツ活動の実態や課題を十分に捉えるため、町田市体育協会及び傘下の団体との情報共有の機会が必要です。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・スポーツ団体との情報の共有化	○	○	○
・ボランティアスタッフが活躍できる仕組みづくり (再掲)			○
・大学との協定の締結(再掲)			○

(3) 障がい者スポーツの活性化

関東身体障害者陸上競技協会と協定を結び、関東身体障害者陸上競技選手権大会実施のため、会場として陸上競技場を優先利用により提供しています。

(課題)

市内には多くの障がい者アスリートが在住していますが、会場提供については陸上競技場における関東身体障害者陸上競技選手権大会が行われていますが、さらなる拡充が求められています。障がいのある人が市内で競技に取り組みやすい環境をつくるためには、大会の誘致などにより町田市の障がい者スポーツを活性化することが必要です。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・障がい者の競技スポーツ大会への場の提供	○		

(4) 顕彰制度・奨励制度等の活性化

スポーツを通して「魅力的で活力あるまち」を創出するためには、アスリートの活躍をより多くの市民に紹介し、アスリートの栄誉をたたえることが必要です。このために、より効果的な広報活動に取り組むとともに、顕彰制度を充実し、アスリートの認知度の向上を図り、市民との交流を深めます。

(課題)

2010年度から毎年、町田市に関係のあるアスリートを顕彰し、市民との交流の場とする「スポーツアワードまちだ」を開催しており、年々候補者のエントリーも増加傾向にあります。受賞候補者が固定化しないように、候補者のさらなる充実が求められています。スポーツアワードまちだをきっかけに、アスリートと市民とのさらなる交流を広げて行くことが必要です。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・【重点施策】トップアスリートとの交流の活性化	○	○	○
・顕彰制度、奨励制度の充実	○		



第3回スポーツアワードまちだ

戦略3 スポーツ環境の整備

「戦略3 スポーツ環境の整備」では、「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツをしたり、みたり、親しむことのできる環境」を創出するとともに、スポーツを通じたまちの活性化・交流の拡大を図ります。

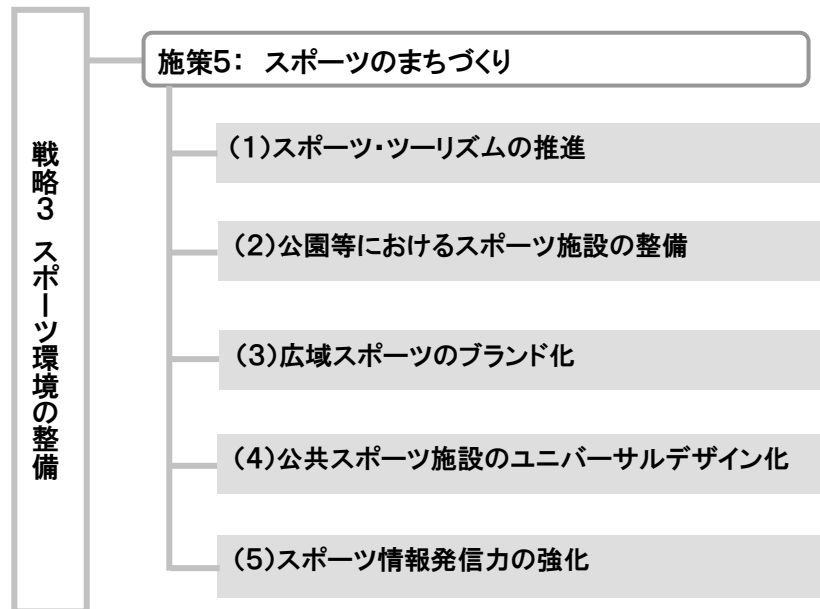


図3-3 戦略3 スポーツ環境の整備における施策の展開

施策5 スポーツのまちづくり

スポーツを軸とする観光振興策として、スポーツ・ツーリズム⁴を推進します。公園等におけるスポーツ施設整備を着実に進めます。市民マラソン等のブランド化を推進します。スポーツ施設のユニバーサルデザイン化を着実に進めます。スポーツに関する情報を発信する機能が重要であり、発信力を強化します。

(1) スポーツ・ツーリズムの推進

スポーツ祭東京 2013 では、開催期間中、町田市で試合が行われた9日間に延べ6万7千人の方が競技会場を訪れました。また、町田市観光コンベンション協会の主催で、FC町田ゼルビアのホームゲーム時には町田駅から陸上競技場までのバスツアーが実施されました。

(課題)

ホームタウンチームをはじめ、市内には様々な魅力あるスポーツ資源が存在していますが、それらを活用した観光施策はまだ十分とは言えません。他の観光資源との連携など

⁴ スポーツ・ツーリズム:「スポーツ参加、観戦を主目的としていること」「宿泊を伴いあるいは24時間以上、その目的地に滞在すること」の2点が主要な柱になる観光の概念。

も含めたスポーツ・ツーリズムを展開し、市外の方を含めて町田市でスポーツに親しんでもらう機会の創出が必要です。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・スポーツ・ツーリズムの連携促進	○	○	○

(2) 公園等におけるスポーツ施設の整備

野津田公園や町田中央公園などに公園施設として、多くのスポーツ施設があり、町田市のスポーツ活動における重要な場となっています。

(課題)

公園のうち、特に、野津田公園には陸上競技場やテニスコートをはじめ、多くのスポーツ施設がありますが、市民のニーズに合わせたさらなる施設の整備が求められています。

また、野津田公園へのアクセスに限りがあることから、大規模イベント時には鶴川駅から野津田公園への直行路線バスが運行されていますが、公共交通の充実が引き続き必要です。また、大規模イベント時の観戦者用の駐車場が少ないことが問題となっています。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・【重点施策】野津田公園におけるスポーツ施設整備	○	○	○

(3) 広域スポーツのブランド化

民間団体が主催する、町田市内外の多くの人が参加する市民マラソン等の各種大会が開催されています。

(課題)

市内で開催されている市民マラソン等の各種大会は、町田市のスポーツを代表するイベントとして定着していますが、大会の公認化や運営方法の見直しなど、さらなる取り組みにより知名度を上げ、参加者を拡大させることが求められています。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・市民マラソン等の活性化	○	○	○

(4) 公共スポーツ施設のユニバーサルデザイン化

施設改修の際には、町田市福祉のまちづくり総合推進条例に則り、ユニバーサルデザインを実施しています。

(課題)

全ての人々が公平にスポーツ施設を利用できる様にするため、年齢、性別、障がいの有無等に関わらずわかりやすく、使いやすい施設にすることが求められています。クラブハウスの整備時や施設改修のタイミングにあわせて順次進めていく必要があります。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・ユニバーサルデザインの推進	○	○	○

(5) スポーツ情報発信力の強化

2009年度から毎年「スポーツフォーラム」を開催し、スポーツに関する様々なテーマでアスリートや関係者による講演やパネルディスカッションを行っています。また、広報まちだ、町田市ホームページ、生涯学習など多様な機会を通じて市民スポーツならびにホームタウンチームやトップアスリートのスポーツ情報を発信しています。

(課題)

スポーツ振興、生涯学習、ホームタウンチームなど各所で発信してきたスポーツ情報を「する人」、「観る人」、「支える人」それぞれの視点に立ち、市民スポーツとトップスポーツの総合的な情報発信が必要です。また、ホームタウンチームのホームゲームの集客のためのPR手段の強化など多様なメディアを活用した情報発信が求められています。

また、スポーツに関する知識の修得や市内のスポーツ情報に触れる貴重なイベントとしてスポーツフォーラムが行われていますが、魅力的な講演者及びパネラー、テーマの選定ならびに広報の強化等を行い、多くの人に参加していただくための取り組みが課題となっています。

(推進施策)

推進施策	する人	観る人	支える人
・【重点施策】総合的なスポーツ情報発信力の強化	○	○	○

第4章 計画の推進にあたって

1. 計画の推進と進行管理

本計画は、町田市をはじめとして市民・企業・大学・関係機関などさまざまな主体が協働することにより推進します。

計画に掲げる施策の推進状況については、市長の附属機関である町田市スポーツ推進審議会に毎年度報告するなど、適切な進行管理に努めます。

2. 計画推進のための財源確保

本計画の推進にあたっては、厳しい財政状況等を考慮しつつ、文部科学省の補助金やスポーツ振興くじ等を活用し、財源の確保に努めます。

3. 町田市スポーツ推進審議会への報告

数値目標として掲げた指標について毎年度の達成状況を確認するほか、スポーツ活動に関する意識・実態及び市内外の社会経済状況等の変化について、町田市スポーツ推進審議会へ報告します。また、町田市スポーツ推進審議会の意見を踏まえ、施策や個別の事業の拡充、見直し等を行います。